

ホシガレイ（地方名：ハダガレイ、ガヤマ、タカノハ）



生態

- 分布・移動：本州中部以南、東シナ海、朝鮮半島沿岸などの水深0～200mの砂泥域に分布し、幼稚魚は沿岸干潟域で成長します。
- 成熟・産卵：成熟開始年齢はオス2歳、メス3歳で成熟全長はオス28cm、メス40cm前後です。産卵期は12～2月で、盛期は1月です。
- 食性：幼稚魚はヨコエビ類、アミ類等、成魚はカニ類の甲殻類を食べます。

ホシガレイの成長(年齢起算日は1月1日)

年齢	オス		メス	
	全長(cm)	体重(g)	全長(cm)	体重(g)
1	19.5	87.8	17.0	56.6
2	31.4	379.3	34.0	484.0
3	34.2	492.7	42.6	976.5
4	34.8	522.1	47.0	1323.7
5	35.0	529.2	49.3	1528.8

福島水試研報14号

漁獲の動向

令和3年の漁獲量は1.7トン、金額は5.0百万円でした。

震災以降、国による出荷制限により水揚げはありませんでしたが、平成28年10月から試験操業対象種として漁獲が開始されました。漁獲量は、令和2年が1,746kg、令和3年が1,610kg、令和4年が1,659kgとなっております。漁獲量は震災前5年間平均の5割程度にまで回復しています。

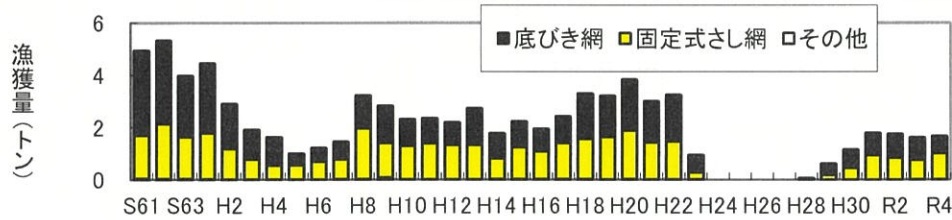


図1 漁業種類別漁獲量の推移

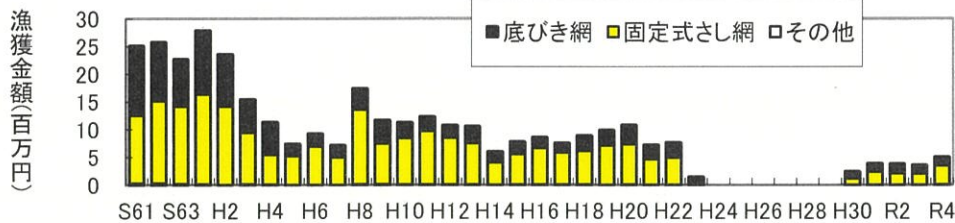


図2 漁業種類別漁獲金額の推移 (H25～29は相対取引のためデータなし)

資源の状態

- 震災以前は天然の個体数が少なく、人工種苗の放流により資源が維持されていました。
- 震災によって、種苗放流は一時中断されましたが、平成30年～令和2年に約18～24万尾の大規模な放流試験が実施されました。今後、これらの漁獲加入により漁獲量の増加が期待されます。

資源の水準：低位
資源の動向：横ばい

現在実施されている管理策

漁業者の自主的な取り決めで、全長30cm未満の水揚げ、販売禁止の管理措置が平成22年7月から相双地区で、平成23年1月から全県で実施されています。

今後考えられる管理策

引き続き現状の管理策を実施し、資源の持続的な利用や漁獲金額の増大を図ることが必要です。